

平成 30 年 9 月 12 日
新丸山ダム工事事務所
設楽ダム工事事務所
浜松河川国道事務所
三峰川総合開発工事事務所

平成30年度における中部地方整備局管内の ダム事業費等監理委員会 開催結果について

ダム建設事業は、調査計画段階から用地補償、生活再建、ダム本体施工を経て管理段階に至るまで、長い期間と多額の事業費を必要とするプロジェクトであり、事業者として、これまでも増して、より一層のコスト縮減、工期遵守に取り組んでいくことが求められています。

このため、平成20年8月5日に事業ごとに「ダム事業費等監理委員会」を設置し、毎年、コスト縮減策やその実施状況、事業の進捗状況、工事工程の進捗状況等について、ご意見を頂いております。

平成30年度についても、委員会を開催し、次のご意見を頂きました。

なお、委員会の説明資料については、各事業のホームページでご覧頂けます。

<開催結果>

【新丸山ダム事業費等監理委員会】<http://www.cbr.mlit.go.jp/shinmaru/>

- 工事工程の進捗状況を踏まえ、予算の効率的な執行方針を定めて、それに沿って事業を進めること。
- 事業全体のクリティカルとなっているのはどの項目か。
- 全体工程と現在の進捗がどのような状況なのか。
- 落札差金など、予算に減額が生じた場合、その使い道はどのような方針で実施内容を決めているのか。次年度以降は実施方針を明確にしていきたい。

(事務局からの説明)

- ・今後とも工事行程の進捗状況を踏まえ、コスト縮減等に取り組みながら、適切に予算を執行し事業を推進していく。
- ・現時点では、本体工事が全体工程のクリティカルであると考えている。
- ・現在本体設計を実施しており、工程の進捗についても精査を進めているところである。
- ・予算については、全体事業費縮減や事業全体工程の短縮を最優先とし、現場条件や地域の要望等も勘案して流用している。昨年度については生活再建を優先し、付替道路整備の進捗に予算を充当している。

【設楽ダム事業費等監理委員会】 <http://www.cbr.mlit.go.jp/shitara/>

- 廃棄岩運搬路・付替道路工事を減額したのはなぜか。
- 落札差金やコスト縮減等の実施により、次年度以降の工事等を前出しして事業の進捗を図っているが、全体工程の中での効率化という視点が大事ではないかと思う。どのような方針で優先順位を決めているのか。来年度以降はその点も明確にしたい。
- ダムの施設は興味を持つ方々も多く、地域振興に役立つので施設の見学等の仕組みを作っていってほしい。設楽ダムの特徴や地域の特色を外国人観光客も含め、アピールできるような施設を設置する等、地域振興に役立つ取組みを行ってほしい。
- 今後も事業の合理化を行い、コスト縮減に努めていただきたい。あわせて、引き続きこれまでに得られた地質調査等の知見を情報発信していただきたい。

(事務局からの説明)

- ・本体工事、付替道路の仮設備について工事箇所が重複し、工事が輻輳することから兼用化の検討を行い、合理的な施工を実施したことによるものである。
- ・事業全体として遅れが生じないようにするため、常時クリティカルパスを意識しつつ、地域の方々の生活再建に関する事業を優先する方針で予算執行を行っている。
- ・昨年度も試験的な観光ツアーも行っているが、引き続きダムを観光資源として活用するなど、地域振興についても貢献できるよう努力していく。
- ・今後本体や付替道路が本格化することから、引き続きコスト縮減に努めていく。また、これまでも地質調査の結果を説明する等努めているところであるが、引き続き情報発信に努めていく。

【天竜川ダム再編事業費等監理委員会】 <http://www.cbr.mlit.go.jp/hamamatsu/>

- 事業計画を見直すに際して、現時点で総事業費の見通しはどうなっているのか。
- これまでに実施した吸引工法などの実験から得られた知見について、広く活用が図られるよう結果をとりまとめ、公表することが必要である。

(事務局からの説明)

- ・工法が変更となることで総事業費は変更となる見込みであり、現在精査しているところである。
- ・実験結果は、検討委員会資料として既に公開しているが、活用という観点を踏まえたとりまとめや公表について、今後検討させていただく。

【三峰川総合開発ダム事業費等監理委員会】 <http://www.cbr.mlit.go.jp/mibuso/>

- 平成 29 年度の予算実施内容について、中止となった下流環境影響調査から修正設計に流用したことになるが、調査は先送りしたのか。
- 総事業費の 90%消化している状況で、今後の実施内容が多く残っているように見えるが、予算は不足しないか。

(事務局からの説明)

- ・環境調査は環境モニタリング調査計画を検討している委員会の審議結果により、平成 30 年度から調査を実施することとなった。
- ・美和ダム再開発の事業メニューにおいて、すでに実施した内容の事業費が大きい。現在の事業予算で整備できる予定である。
- ・今後の工事諸費も含めた予算管理、コスト縮減に留意していく。

<問合せ先>

国土交通省中部地方整備局新丸山ダム工事事務所

副所長 永田 基

TEL 0574-43-2780

国土交通省中部地方整備局設楽ダム工事事務所

副所長 馬淵 啓之

TEL 0536-23-4331

国土交通省中部地方整備局浜松河川国道事務所

副所長 松山 康忠

TEL 053-466-0111

国土交通省中部地方整備局三峰川総合開発工事事務所

副所長 尾畑 伸之

TEL 0265-98-2921

設楽ダム事業費等監理委員会 運営要領

第１条（総 則）

本要領は、「中部地方整備局ダム事業費等監理委員会設置要領（平成２０年３月３１日付国部整河計第９２号）」第６条の規定に基づき、設楽ダム事業費等監理委員会（以下「委員会」という。）の運営に関する必要な事項を定めるものである。

第２条（組 織）

- １． 委員会は、別紙の委員をもって構成する。
- ２． 委員長は委員の互選によって選出し、委員会を総括するものとする。
- ３． 必要に応じ、委員長の指名する委員を追加することができる。

第３条（所掌事項）

委員長は、事務所長からの要請を請けて委員会を招集するものとする。委員会は、原則として以下の事項について、確認を行うとともに意見を述べるものとする。なお、これ以外の事項について、事務所長から要請のあった場合には、確認を行うとともに意見を述べるものとする。

- １） 事業の進捗状況
- ２） 当該年度の予算と事業内容
- ３） 当該年度の目標とスケジュール
- ４） コスト縮減策の具体的な内容

第４条（委員の任期）

委員の任期は、原則として委嘱のあった日から５年後の年度末までとする。なお、５年以内に当該事業が 完成した場合は、管理に移行する日までとする。

第５条（事務局）

委員会の事務局は、設楽ダム工事事務所工務課に置くものとする。

第６条（委員長への委任）

この要領に定めるもののほか必要な事項は、委員長が委員会に諮って定めるものとする。

附 則

この運営要領は、平成２０年８月５日から適用する。

平成２３年１１月１日 一部改定
平成２５年８月２８日 一部改定
平成２６年８月２６日 一部改定
平成２７年８月２７日 一部改定
平成２８年８月１８日 一部改定
平成２９年８月 ７日 一部改定
平成３０年８月２１日 一部改定

別紙

設楽ダム事業費等監理委員会・名簿
委 員

区 分	専門分野	氏 名	所 属
学識経験者	環境経済システム	おがわ よしき 小川 芳樹	東洋大学経済学部総合政策学科／教授
	公認会計士	たかぎ まさき 高木 正樹	公認会計士高木正樹事務所
	マスコミ	いのうえ じゅん 井上 純	中日新聞社／論説委員
	交通工学	まつもと ゆきまさ 松本 幸正	名城大学理工学部社会基盤デザイン工学科／教授
	ダム維持管理	まつお なおき 松尾 直規	中部大学工学部都市建設工学科／教授
	コンクリート工学	うちだ ゆういち 内田 裕市	岐阜大学工学部社会基盤工学科／教授
関係機関		くわばら よしたか 桑原 良隆	愛知県振興部土地水資源課長
		おかじま みつのり 岡島 充典	愛知県建設部河川課長
		つかはら やすひと 塚原 康仁	愛知県企業庁水道部水道計画課長

(順不同、敬称略)

事務局等

区 分	氏 名	所 属
中部地方整備局	まつ お おさむ 松尾 修	河川部広域水管理官
	すが まさし 須賀 正志	設楽ダム工事事務所長

設楽ダム建設事業について

平成30年8月21日
国土交通省 中部地方整備局
設楽ダム工事事務所

目次

1. 事業の概要	1
1) 流域の概要	1
2) 事業の目的及び計画内容	2
3) 事業の経緯	3
4) 事業の全体工程	4
5) 事業の進捗状況	6
6) 事業の全体工程(進捗状況)	7
2. 平成29年度予算	9
1) 実施内容	9
2) 事業実施箇所	10
3) 個別説明	11
(1) 工事用道路	11
(2) 転流工	12
(3) ダム本体関連検討等	13
(4) 廃棄岩運搬路・付替道路工事	14
4) コスト縮減策	15
(1) 設計・検討段階一個別工事に関わるもの	15
(2) 工事施工段階一個別工事に関わるもの	16
3. 平成30年度予算	17
1) 実施内容	17
2) 事業実施箇所	18
3) 個別説明	19
(1) 本体付属関連工事	19
(2) 転流工	20
(3) 付替道路工事	21
(4) 付替道路工事	22
(5) 付替道路工事	23
4. ダムを観光資源とした地域振興の取組み	24

1. 事業の概要

1) 流域の概要

■ 豊川は、源を愛知県北設楽郡設楽町の段戸山^{だんどさん}に発し三河湾に注ぐ、幹川流路延長約77km、流域面積724km²の一級河川で、流域市町には約61万人(3市1町)の人々が生活しており、この地域の産業・経済・社会・文化の発展の基盤を築いてきた。



位置図

豊川の流域概要

流域面積	724km ²
幹川流路延長	約77km
流域市町村	3市1町
流域市町村人口※1	約61万人

※1: 出典: 平成27年国勢調査人口(豊橋市、豊川市、新城市、設楽町)



豊川流域図

2)事業の目的及び計画内容

(1)事業の目的

- 洪水時の水量を調節して、河道の整備と併せて豊川流域の洪水被害を軽減する。
- 渇水時にも、豊川に一定量の水が流れるようにする。
- 東三河地域に新たな水道水と農業用水の供給を可能にする。

(2)計画内容

○実施箇所(豊川水系豊川)

右岸:愛知県北設楽郡設楽町松戸 左岸:愛知県北設楽郡設楽町清崎

○計画内容

＜洪水調節＞

設楽ダムの建設される地点における計画高水流量毎秒1,490m³のうち、毎秒1,250m³の洪水調節を行う。

＜流水の正常な機能の維持＞

下流の既得用水の補給等流水の正常な機能の維持と増進を図る。

＜かんがい＞

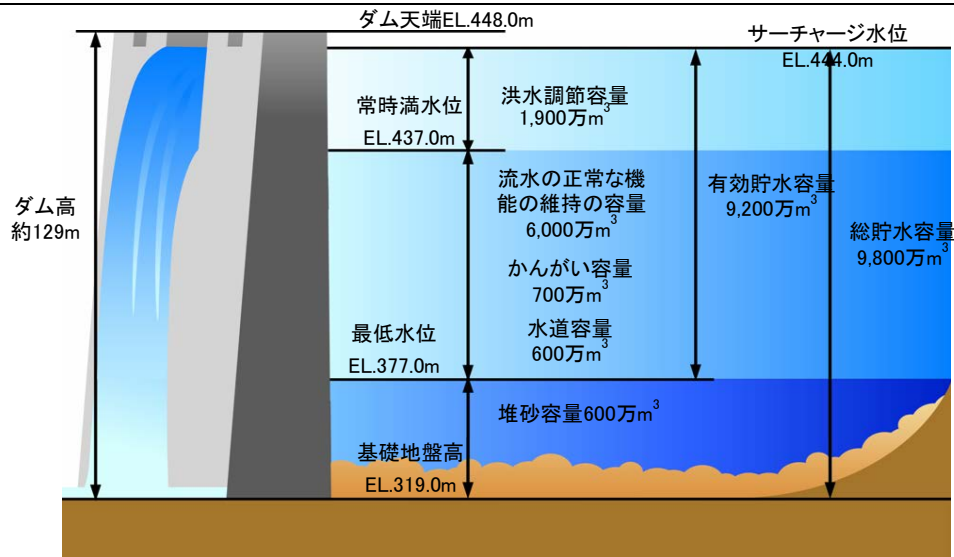
愛知県東三河地域の農地約17,200haに対するかんがい用水として、新たに毎秒0.339m³(年平均)の取水を可能とする。

＜水道＞

愛知県東三河地域の水道用水として、新たに毎秒0.179m³の取水を可能とする。

設楽ダムの諸元

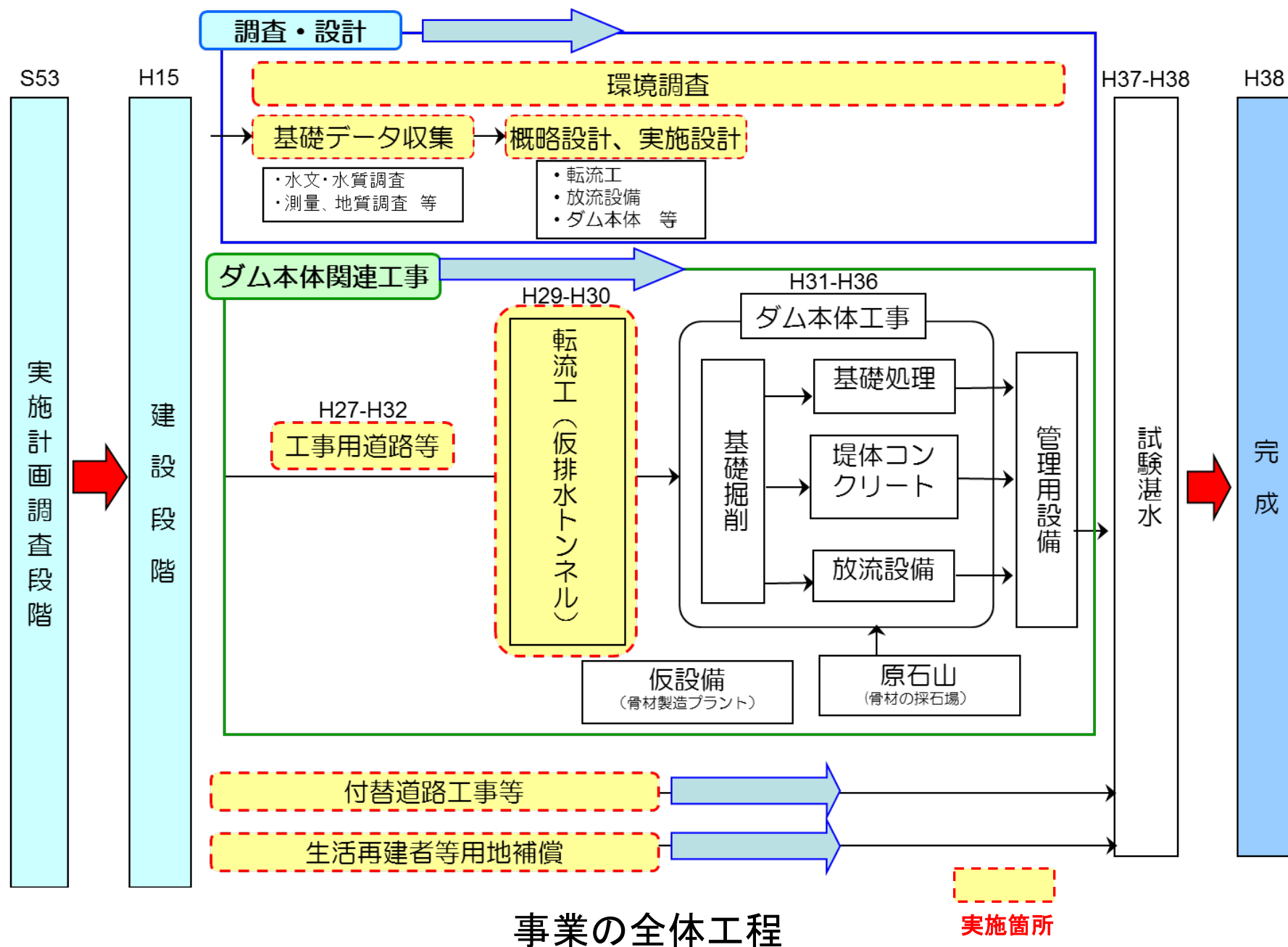
形式	重力式コンクリートダム
堤高	約129m
流域面積	約62km ²
湛水面積	約3km ²
総貯水容量	9,800万m ³
洪水調節容量	1,900万m ³



3) 事業の経緯

昭和53年	4月	実施計画調査に着手
平成 2年	5月	「豊川水系における水資源開発基本計画」閣議決定
平成11年	12月	「豊川水系河川整備基本方針」策定
平成13年	11月	「豊川水系河川整備計画」策定
平成15年	4月	建設事業に着手
平成18年	2月	「豊川水系における水資源開発基本計画」全部変更閣議決定
	4月	「豊川水系河川整備計画」一部変更
平成19年	6月	「豊川水系設楽ダム建設事業環境影響評価書」を公告縦覧
平成20年	10月	基本計画告示(工期:平成32年度 事業費:2,070億円)
平成21年	2月	損失補償基準妥結、ダム建設同意調印
	3月	水源地域整備計画決定
	6月	用地補償契約着手
	8月	道路工事着手
	12月	検証の対象とするダム事業に選定
平成22年	9月	検証に係る検討の指示
	11月	「第1回設楽ダム建設事業の関係地方公共団体からなる検討の場」を開催 第2回:平成23年2月 第3回:平成23年5月 第4回:平成23年12月 第5回:平成25年2月
平成26年	4月	国土交通大臣による対応方針「継続」の決定(H26.4.25)
平成28年	9月	基本計画(第1回変更)告示(工期:平成38年度 事業費:2,400億円)
平成29年	3月	転流工工事着手

4) 事業の全体工程



○今後の工程

年 度	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (H31)	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026
転流工										
基礎掘削										
堤体工事										
付替道路工事										
補償 (用地・公共補償)										
試験湛水										

※工程は現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合がある

5)事業の進捗状況

○予算執行状況

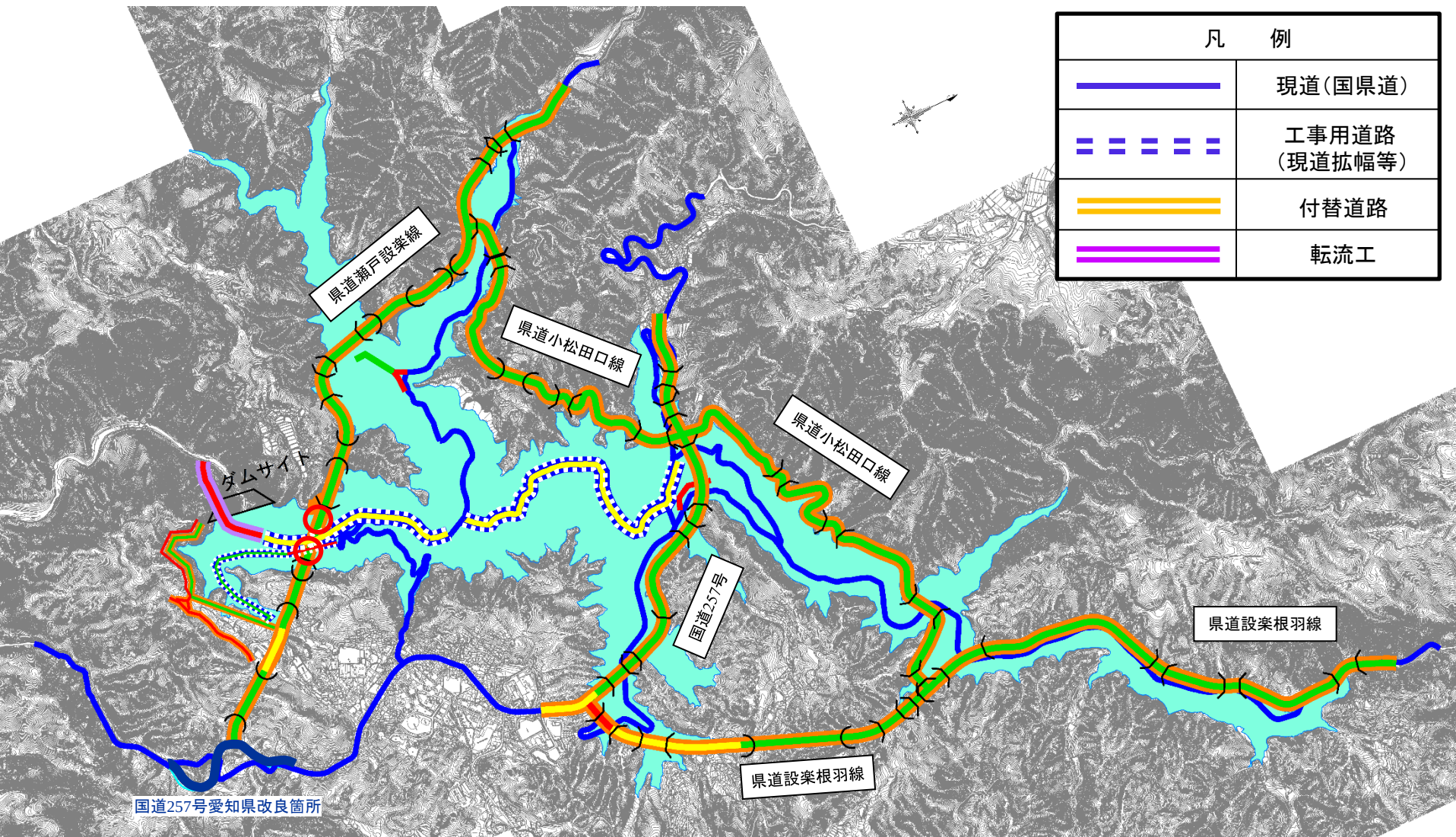
- ・総事業費 約2,400億円
- ・H29年度 67.3億円
- ・H30年度 67.3億円
- ・H29年度迄 約683億円（進捗率約28%）

（平成30年3月末時点）

補償基準他	H21.2 用地補償基準妥結 H21.3 水源地域特別措置法の水源地地域指定、整備計画の決定			
用地取得 （約300ha） ※数字は水没地のみの面積	約94%（約286ha）			
家屋移転 （124世帯）	100%（124世帯）			
付替国道、付替県道 （約17km）	0%（0km） ※設楽根羽線・瀬戸設楽線工事施工中			
付替町道、付替林道 （約18km）	約2%（0.3km） ※町浦シウキ線完成			
ダム本体及び 関連工事	転流工 基礎掘削 堤体工事 試験湛水 ※本体関連工事（工事用道路、転流工）施工中			

 …実施済み

6) 事業の全体工程(進捗状況)



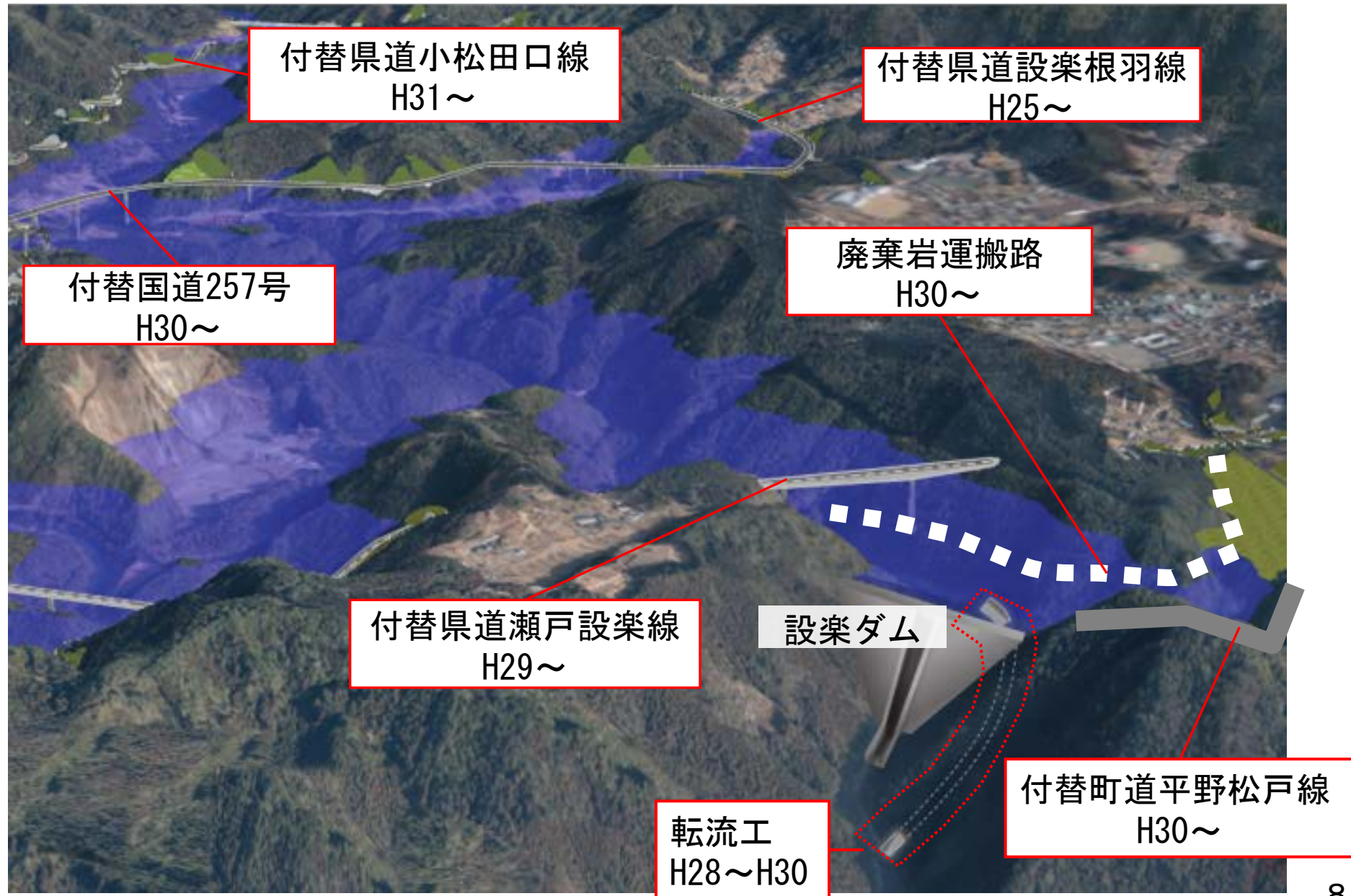
凡 例	
	現道(国県道)
	工事用道路 (現道拡幅等)
	付替道路
	転流工

記 号 凡 例	
	橋梁
	トンネル

凡 例	
H29年度迄	
H30年度施工	
H31年度以降	

6) 事業の全体工程(進捗状況)

●設楽ダム及び周辺付替道路位置図(イメージ)※施工年次は想定



2. 平成29年度予算

1) 実施内容

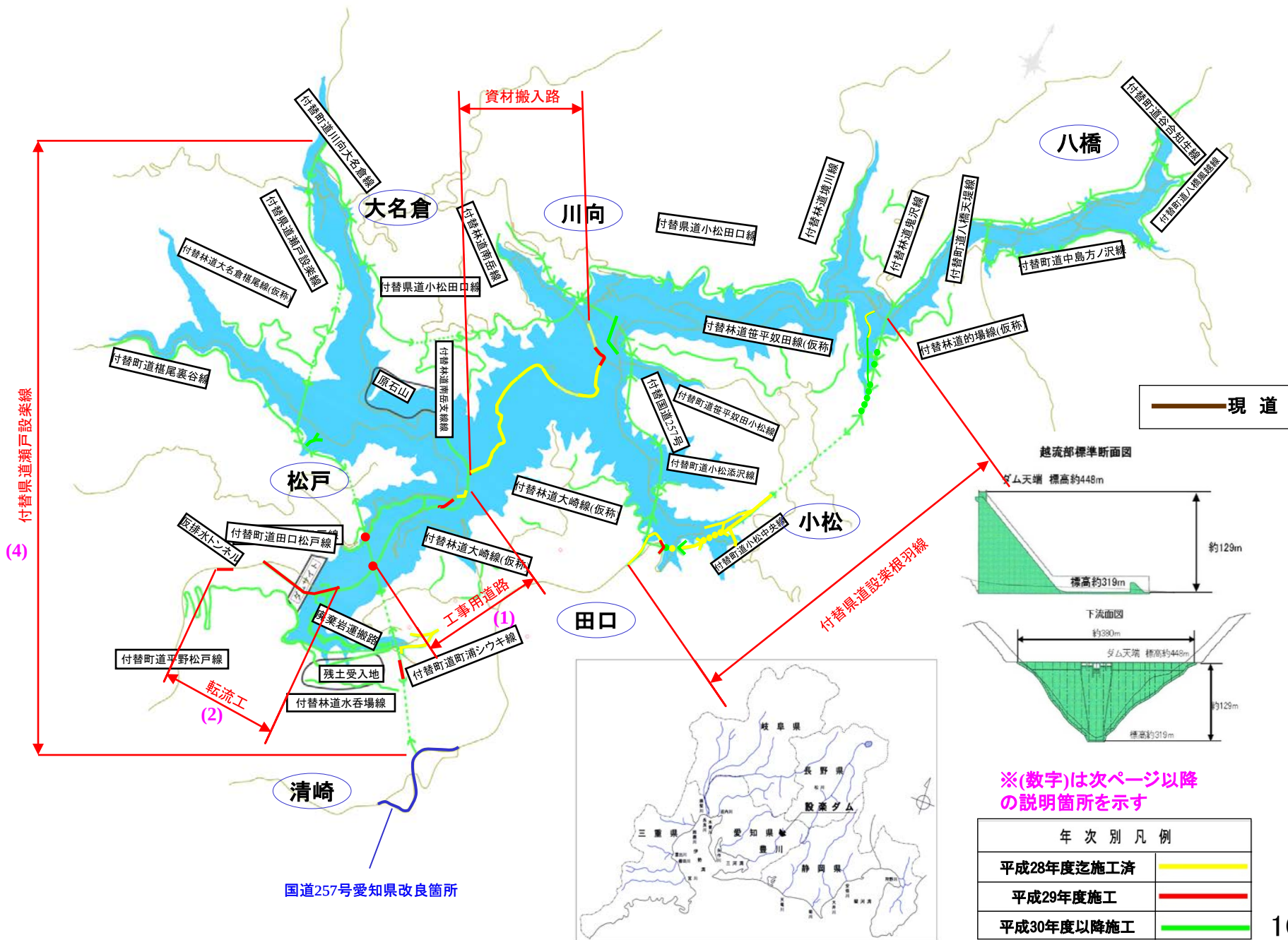
○平成29年度予算額

当初 ・当初:62. 03億円 ※工事諸費等除く
(百万円)

変更 ・変更:62. 03億円 ※工事諸費等除く
(百万円)

工事費(1, 257. 3) ①施設維持等(約9. 4) ②資材搬入路(約100. 0) ③工事用道路(約120. 0) ④転流工(約927. 0) ⑤廃棄岩運搬路(約80. 0) ⑥その他 諸調査(約20. 9)	+295.6	工事費(1, 552. 9) ①施設維持等(約32. 0) 土砂崩れによる光ケーブル断線復旧工事による <増額> ②資材搬入路(約113. 4) 実施数量精査による <増額> ③工事用道路(約688. 8) 現場不一致により設計変更したことによる <増額> ④転流工(約698. 6) 落札差金による<減額> ⑤廃棄岩運搬路(約0. 0) 合理的な設計変更(付替道路と兼用化)をしたことによる<減額> ⑥その他 諸調査(約20. 1) 数量精査及び落札差金<減額>
測量設計費(1, 614. 3) ①継続調査 ・水文水質調査(約20. 0) ・環境調査等(約222. 0) ②用地・建物調査(約110. 0) ③付替道路設計等(約247. 0) ④埋蔵文化財調査(約113. 0) ⑤ダム本体関連検討等(約734. 0) ⑥その他 諸調査(約168. 3)	+741.0	測量設計費(2, 355. 3) ①継続調査 ・水文水質調査(約27. 0) 地下水位観測箇所追加による<増額> ・環境調査等(約272. 9) 環境監視調査追加による<増額> ②用地・建物調査(約118. 1) 実施数量精査による<増額> ③付替道路設計等(約455. 1) 橋脚箇所の地質調査等追加による<増額> ④埋蔵文化財調査(約111. 5) 実施数量精査による<減額> ⑤ダム本体関連検討等(約1, 182. 8) 地すべり調査の前倒し実施による <増額> ⑥その他 諸調査(約187. 9) 実施数量精査による<増額>
用地費及び補償費(3, 303. 0) ①用地補償(約1, 450. 0) ②付替道路工事(約1422. 0) ③埋蔵文化財調査(約401. 0) ④維持作業等(約30. 0)	▲1,040.0	用地費及び補償費(2, 263. 0) ①用地補償(約963. 2) 落札差金及び地権者等との調整による<減額> ②付替道路工事(約896. 7) 合理的な設計変更(廃棄岩運搬路と兼用化)をしたことによる<減額> ③埋蔵文化財調査(約354. 9) 実施数量精査による<減額> ④維持作業(約48. 2) 管理用地増に伴う除草面積等の数量増による<増額>
船舶及び機械器具費(26. 8) ①電気通信施設保守点検等(約26. 8)	+2.6	船舶及び機械器具費(29. 4) ①電気通信施設保守点検等(約29. 4) 実施数量精査による<増額>
事業車両費(1. 4) ①車両管理等(約1. 4)	+0.8	事業車両費(2. 2) ①車両管理等(約2. 2) 実施数量精査による<増額>

2)事業実施箇所



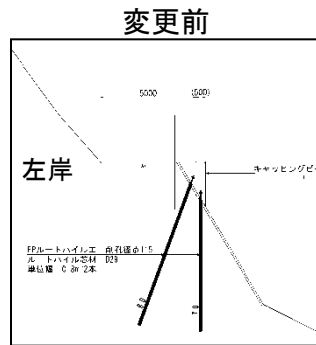
3) 個別説明

(1) 工事用道路 工事費

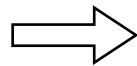
ダムサイト右岸における工事用道路の工事を実施。

当初	変更	理由
約120.0百万円	約688.8万円 →約568.8百万円増額	当初計画のルートパイル工法では一部区間が施工できないことが判明し、右岸仮橋ルートに変更する必要が生じたため、増額となった。

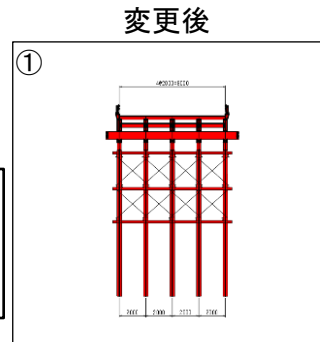
凡例		平成28年度迄施工済
		平成29年度実施
		平成30年度以降



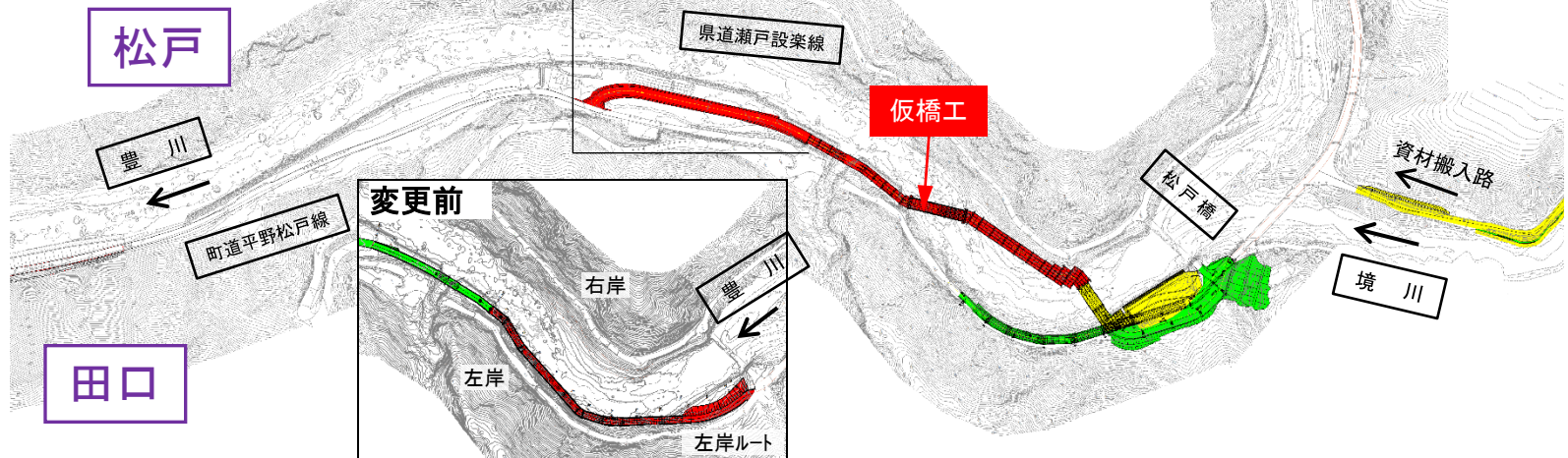
左岸ルートパイル工法



地山状態
が脆弱で
あるため
変更



右岸仮橋工法

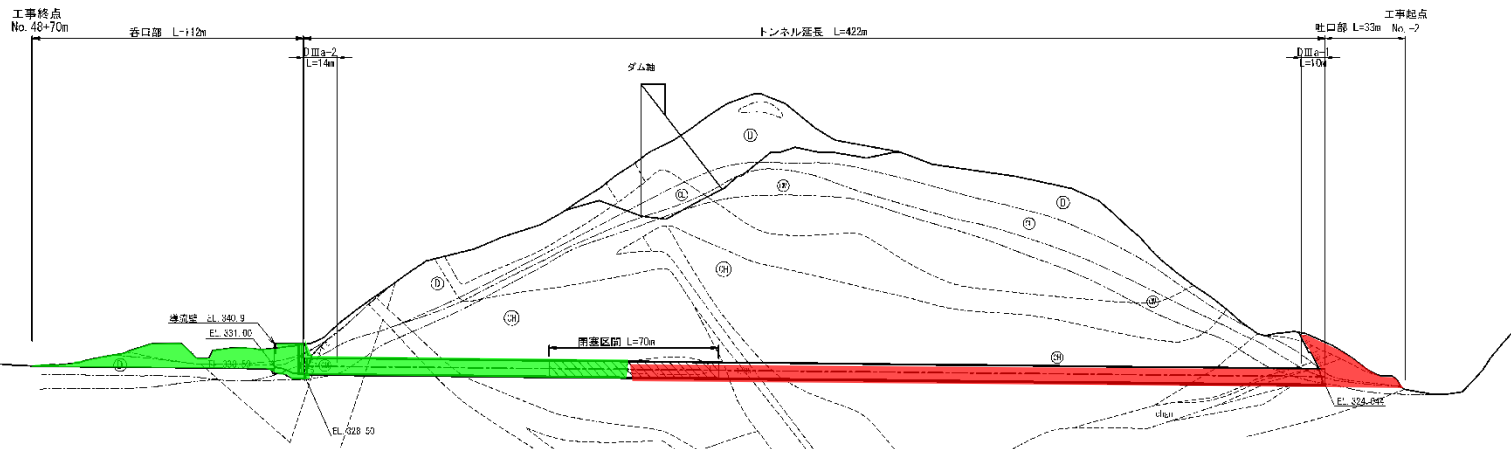
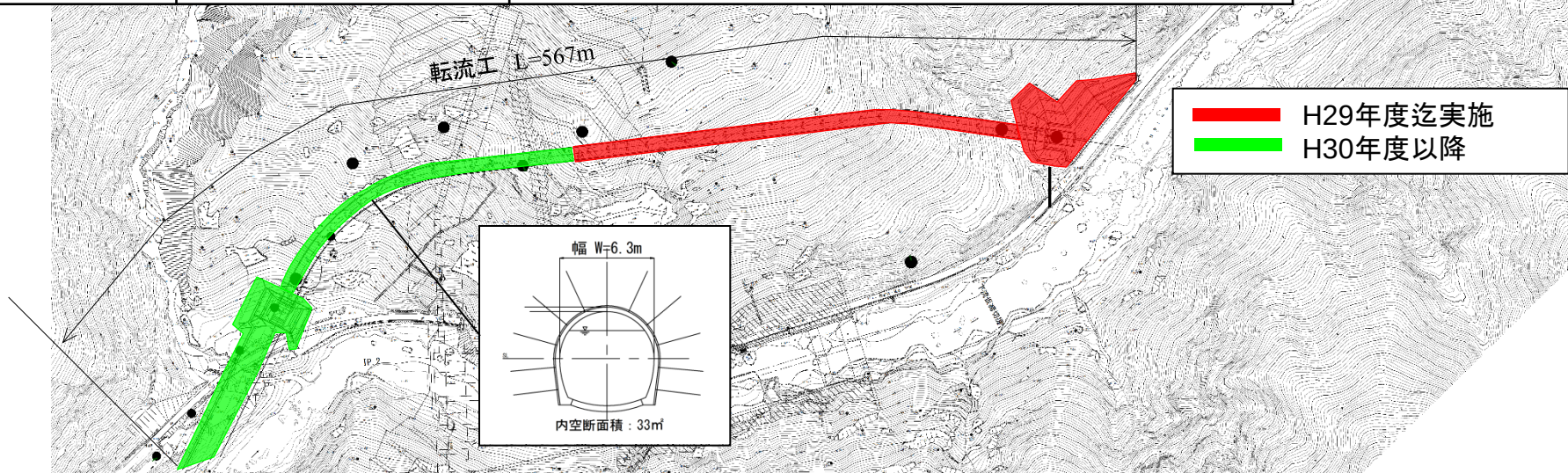
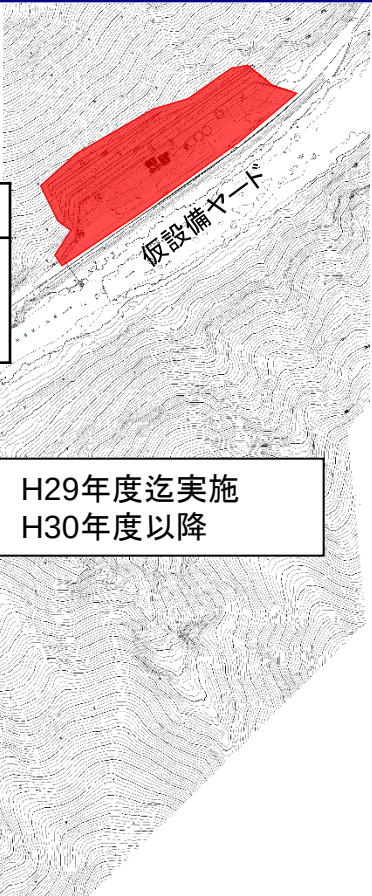


3) 個別説明

(2) 転流工 工事費

本体工事に向けた豊川本川の切り回しのための仮排水路トンネル工事(平成28年度～30年度)。
平成29年度は、仮設備ヤードや吐口部及びトンネル掘削を実施。

当初	変更	理由
約927. 0百万円	約698. 6万円 →約228. 4百万円減額	当該工事の総額に対する落札差金を、国債年割金額の大きいH29年度に計上したため減額となった。

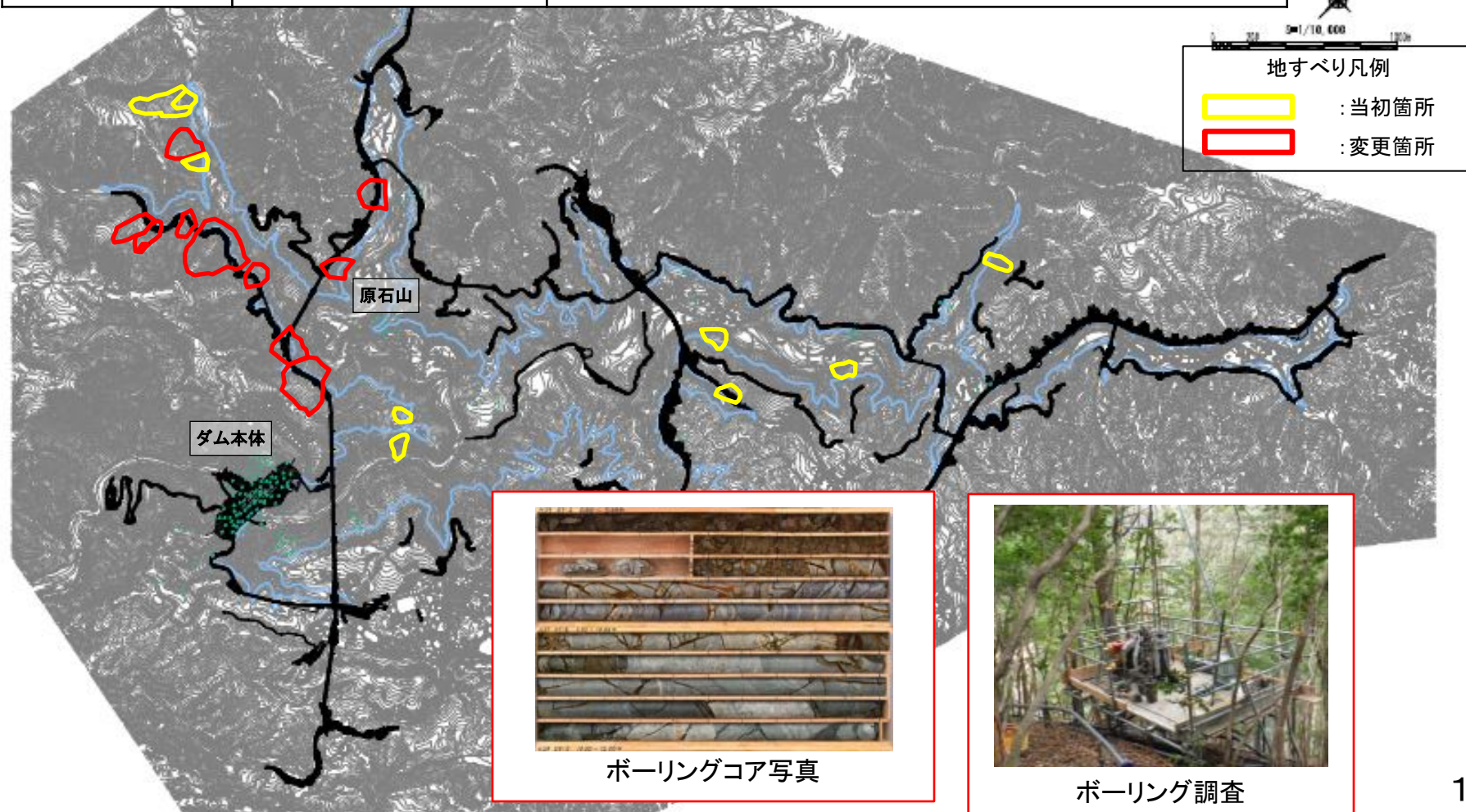


3) 個別説明

(3) ダム本体関連検討等 測量設計費

地すべり調査やダム堤体設計のための地質解析、本体設計などを実施。

当初	変更	理由
約734.0百万円	約1,182.8百万円 →約448.8百万円増額	付替道路設計に必要な箇所の地すべり調査において、前倒しで調査を実施したことにより増額となった。



3) 個別説明

(4) 廃棄岩運搬路・付替道路工事

工事費・用地費及び補償費

廃棄岩運搬路の整備を調整し、付替道路(県道瀬戸設楽線)の工事(5号橋及び土工10工区)を実施。

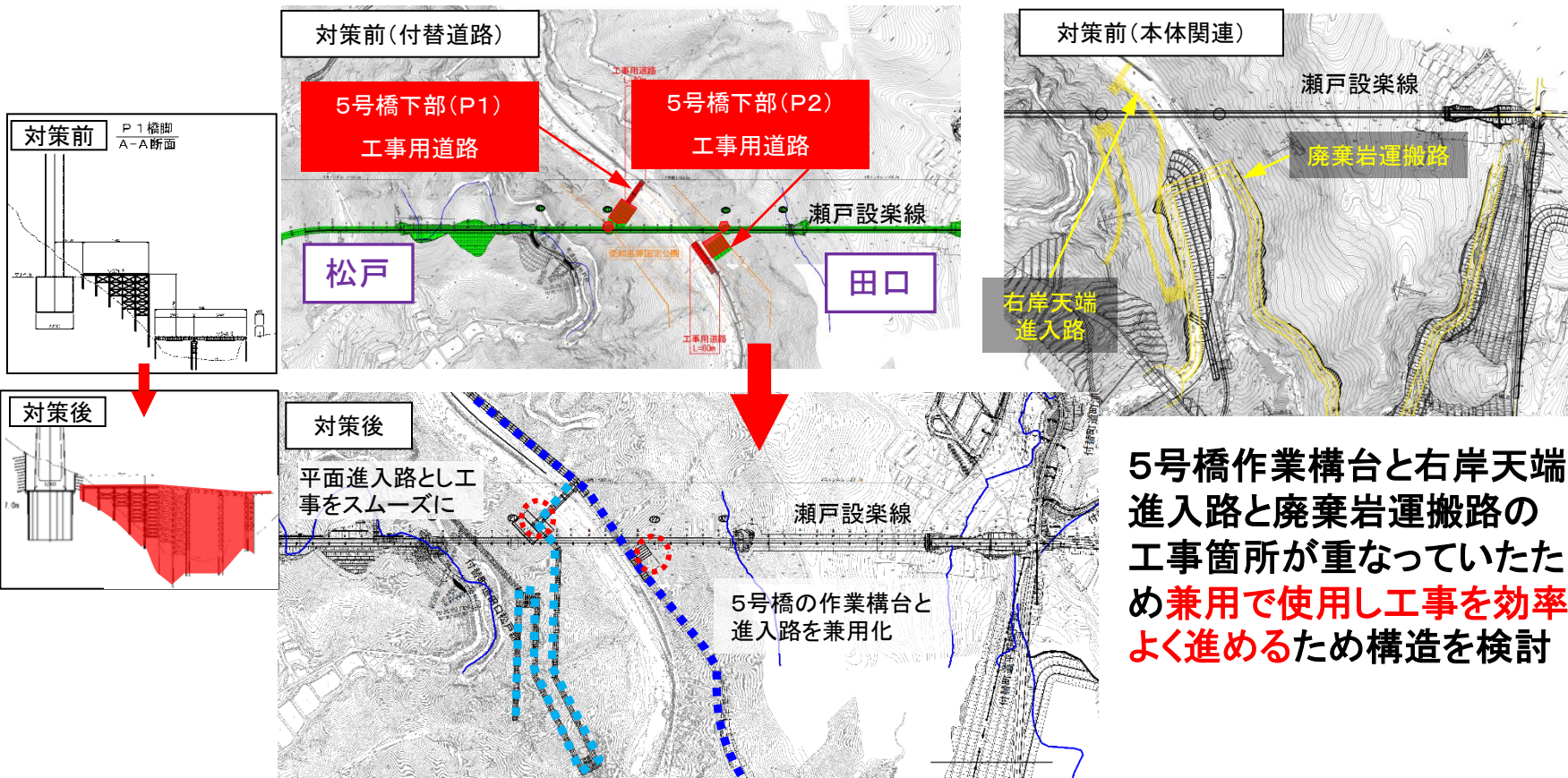
当初	変更	理由
廃棄岩運搬路 約80百万円	約0百万円 →約80百万円減額	5号橋の落札差金による減額及び 作業構台と廃棄岩運搬路右岸天端 進入路を兼用化して施工時期を調 整したため減額
瀬戸設楽線 約1,108百万円	約575.1百万円 →約532.9百万円減額	

廃棄岩運搬路簡易工程

当初	H29	H30	H31	H32	H33
廃棄岩運搬路					
本体基礎掘削(左岸頂部含む)					

変更	H29	H30	H31	H32	H33
廃棄岩運搬路					
本体基礎掘削(左岸頂部)					
本体基礎掘削					

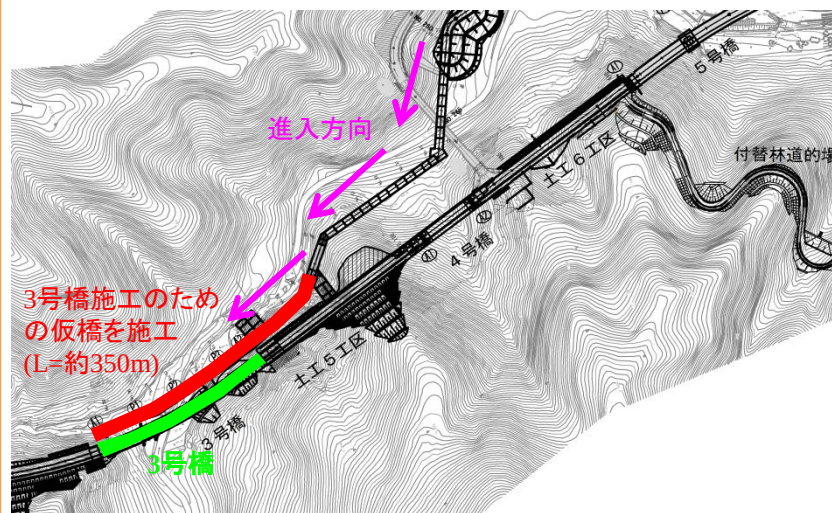
※工程は現時点の予定であり、今後の状況等により変更となる場合がある



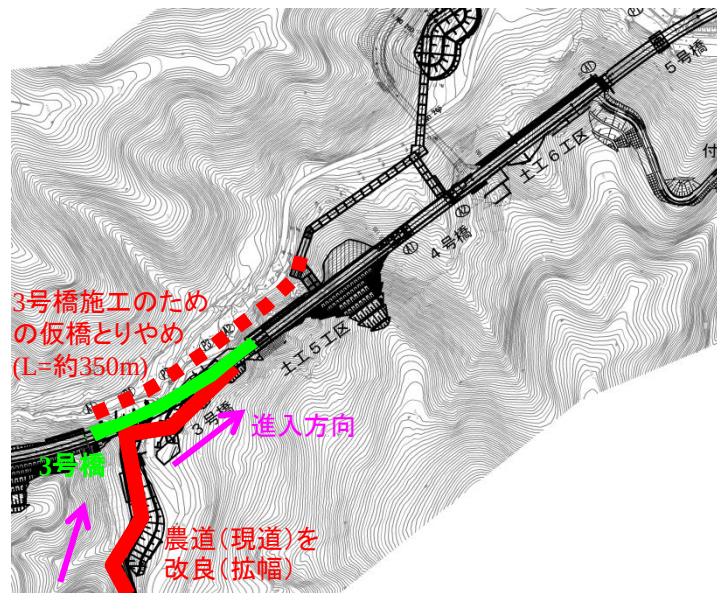
4)コスト縮減策

(1)設計・検討段階一個別工事に関わるもの

当初（仮栈橋工事用道路）



変更（現道利用工事用道路）



■コスト縮減内容

道路管理者との調整・地元合意により、農道（農道スタベ線）を改良して活用することで、コスト縮減を図った。

■コスト縮減の理由

当初案は、現状の農道の改変を最小限とするため仮栈橋による工事用道路を計画していたが、農道利用者や役場との調整及び施工時の通行止めに関する道路管理者との協議の結果、了承を得ることができたため、仮橋構造から現道改良（現道拡幅）による工事用道路への変更が可能となった。

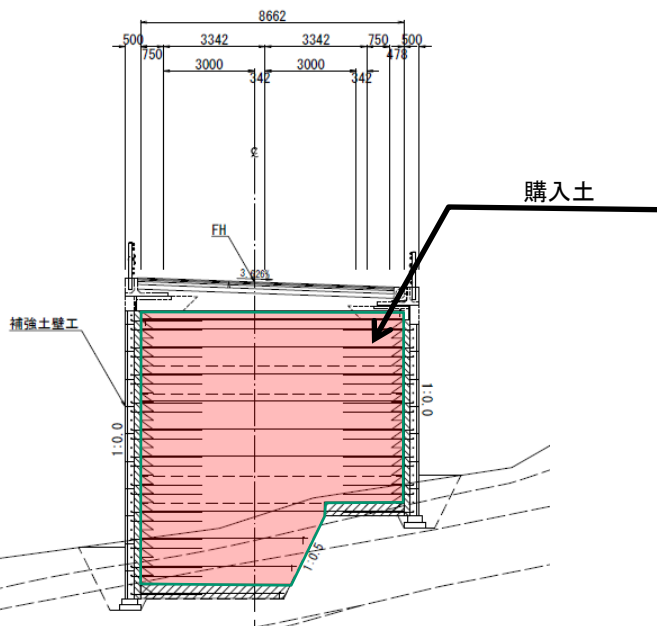
■コスト縮減額

約370百万円（約1,447百万円→約1,077百万円【進入路施工と3号橋架設費用の金額】）

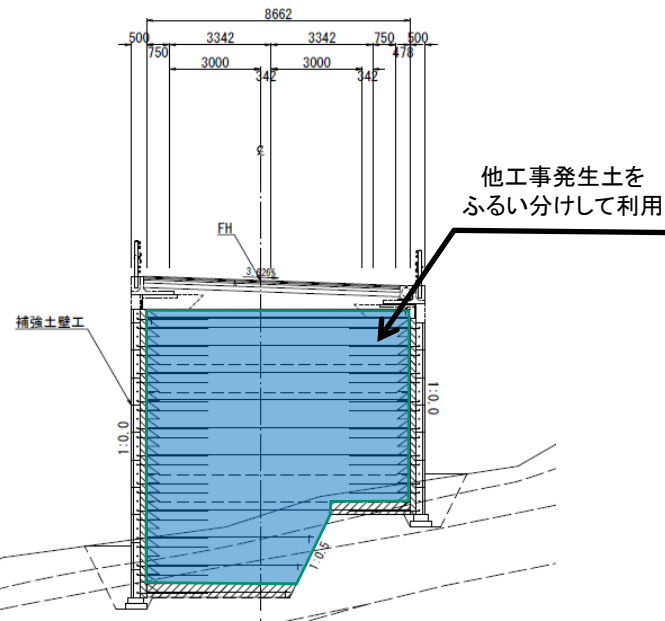
4)コスト縮減策

(2) 工事施工段階 個別工事に関わるもの 平成29年度 設楽根羽線1号橋下部工事

当初（補強土壁工）



変更（補強土壁工）



■コスト縮減内容

補強土壁背面の盛土材を他工事から発生する土砂を再利用しコスト縮減を図った。

■コスト縮減の理由

当初案は、補強土壁背面の盛土材として購入土を予定していたが、他工事にて発生した土砂をふるい分けする事で盛土材として利用できたため、購入土からふるい分けした発生土に変更が可能となった。

■コスト縮減額

約8百万円（約13百万円→約5百万円）

3. 平成30年度予算
1) 実施内容

○平成30年度予算額

・当初:62. 29億円 ※工事諸費等除く

(百万円)

当初

工事費(1, 135. 3)

- | | |
|--------------------|---------------------------------------|
| ①施設維持等(約9. 4) | … 光ケーブル保守点検、観測施設保守点検等 |
| ②転流工(約613. 0) | … 本体工事に向けた豊川本川の切り回しのための仮排水路トンネル(3年国債) |
| ③本体付属関連工事(約421. 0) | … 廃棄岩骨材運搬路、右岸天端進入路等の工事用道路の整備 |
| ④その他 諸調査(約91. 9) | … 工事監督支援業務等 |

測量設計費(1, 808. 4)

- | | |
|---------------------|---|
| ①継続調査(約350. 0) | … 流量・水質観測及びデータ整理及びネコギギ・猛禽類等の環境モニタリング調査等 |
| ②用地・建物調査(約255. 0) | … 用地取得に係る支援業務や境界杭設置等 |
| ③付替道路設計等(約547. 0) | … 瀬戸設楽線等の地質調査、設計 |
| ④埋蔵文化財調査(約25. 0) | … 本発掘調査の出土品整理等 |
| ⑤ダム本体関連検討等(約390. 0) | … ダム堤体設計のための地質解析、本体設計等 |
| ⑥その他 諸調査(約241. 4) | … 地元、関係機関協議用資料作成等 |

用地費及び補償費(3, 230. 0)

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| ①用地補償等(約679. 0) | … 用地補償、公共補償、特殊補償 |
| ②付替道路工事(約2, 171. 0) | … 設楽根羽線、瀬戸設楽線、国道257号等の道路建設工事 |
| ③埋蔵文化財調査(約350. 0) | … 発掘調査 |
| ④維持作業等(約30. 0) | … 取得用地の管理(除草工)等 |

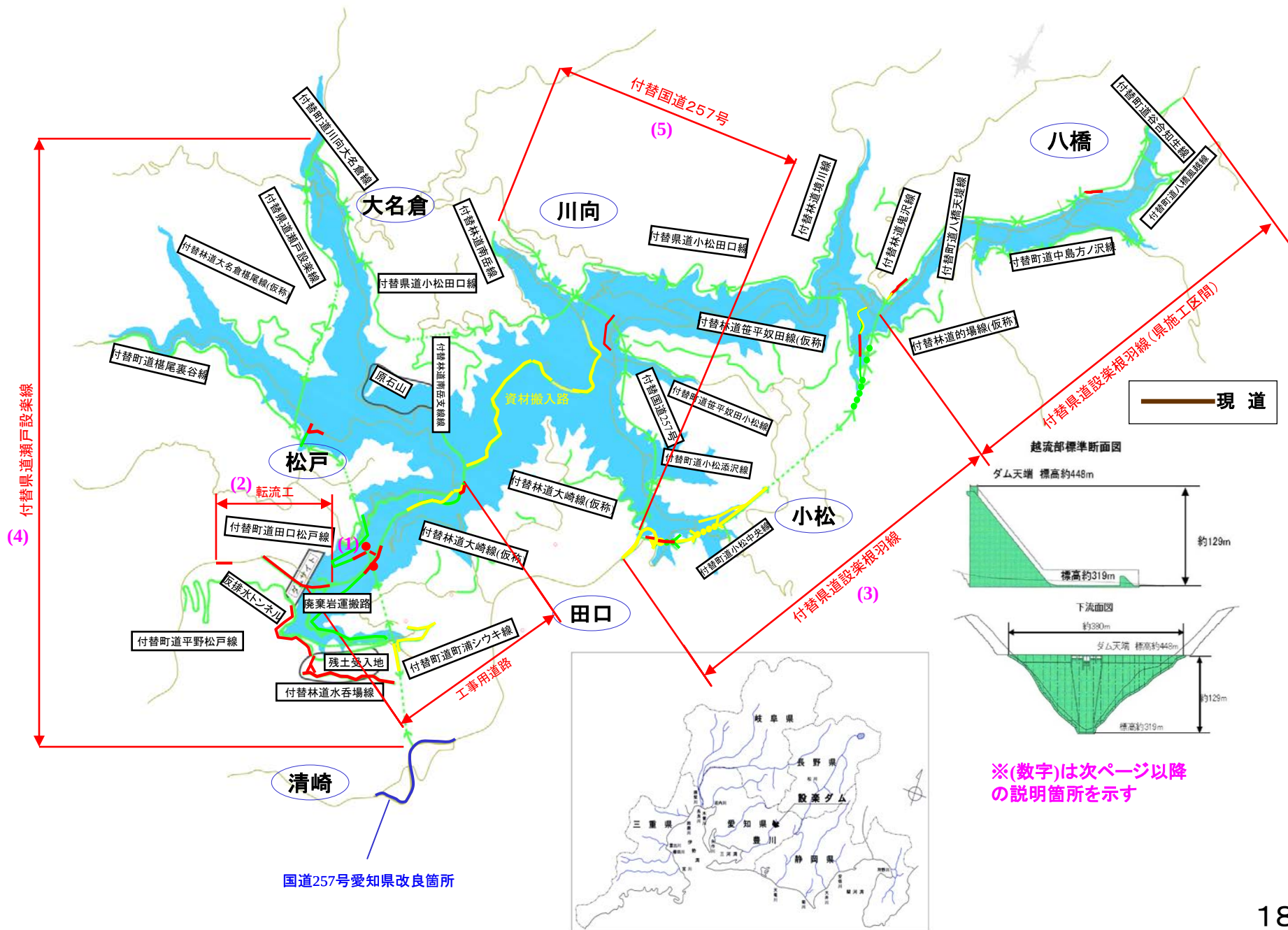
船舶及び機械器具費(52. 0)

- ①電気通信施設保守点検等(約52. 0)

事業車両費(3. 5)

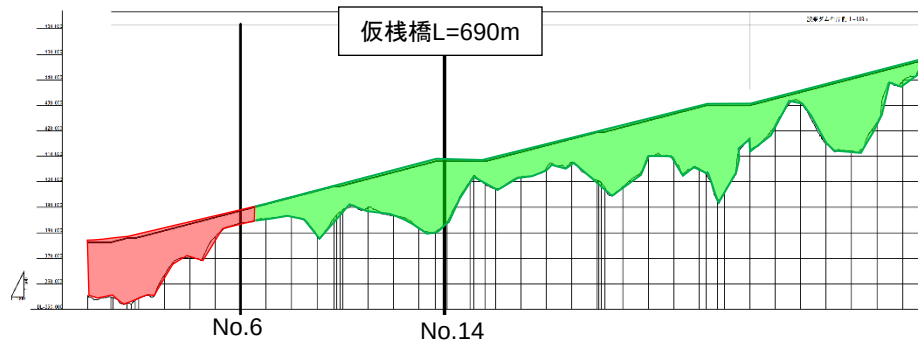
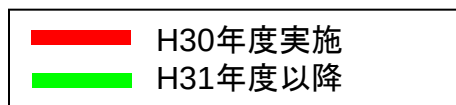
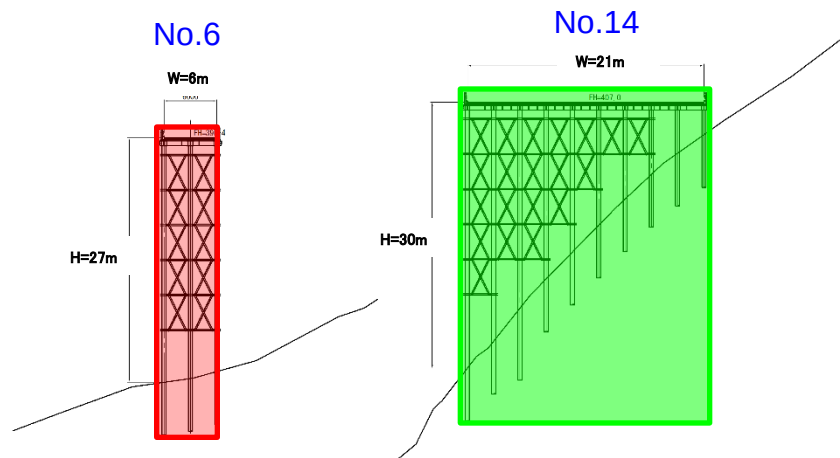
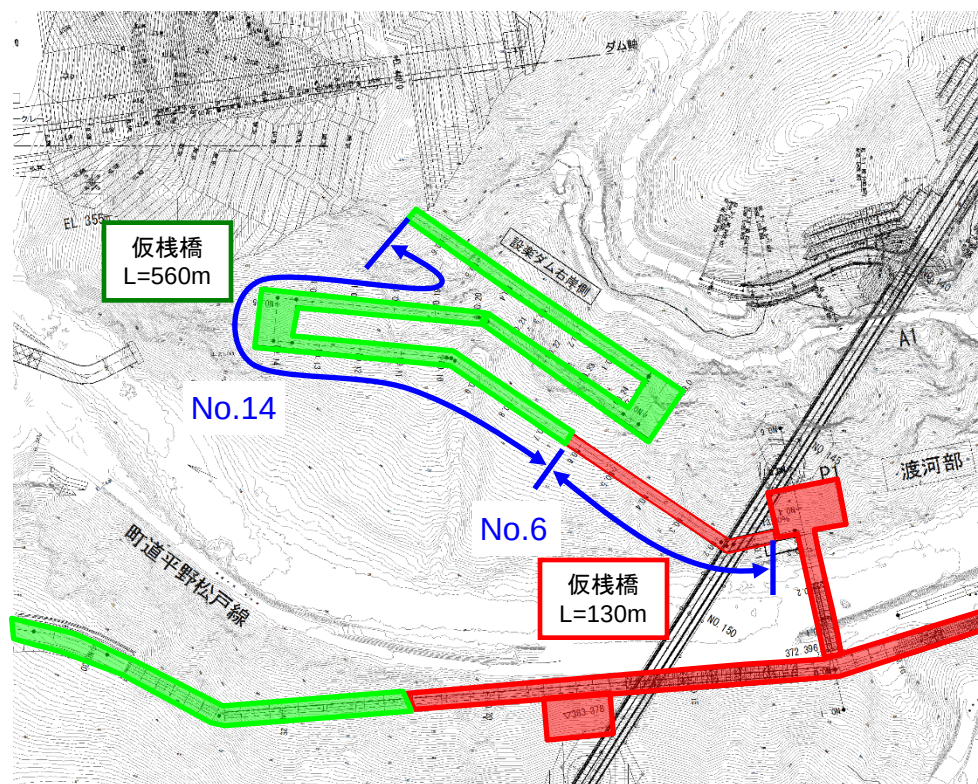
- ①車両管理等(約3. 5)

2)事業実施箇所



3) 個別説明

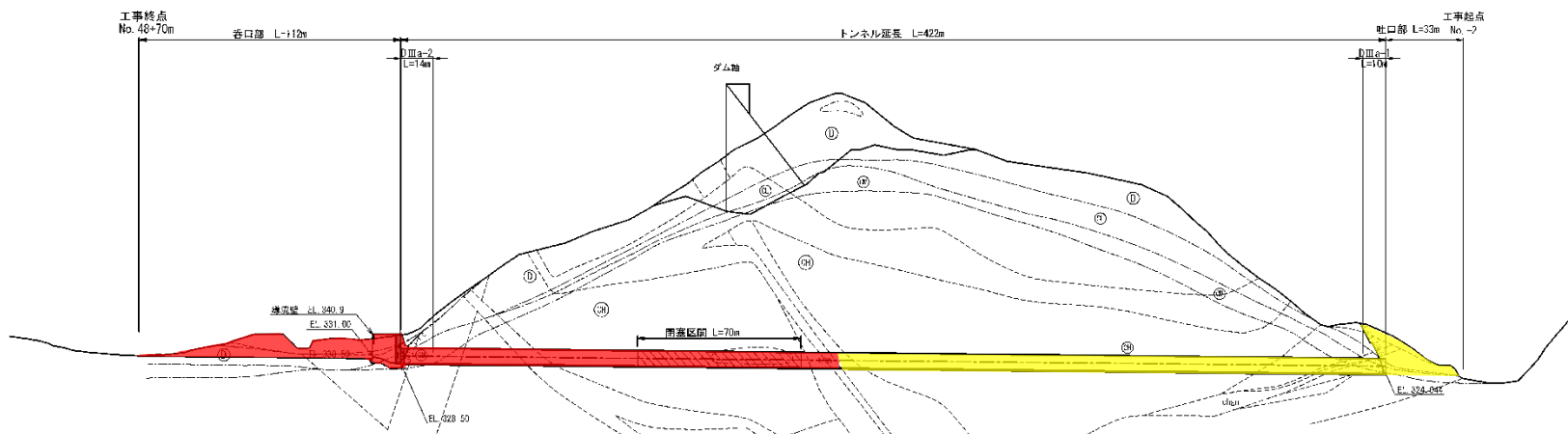
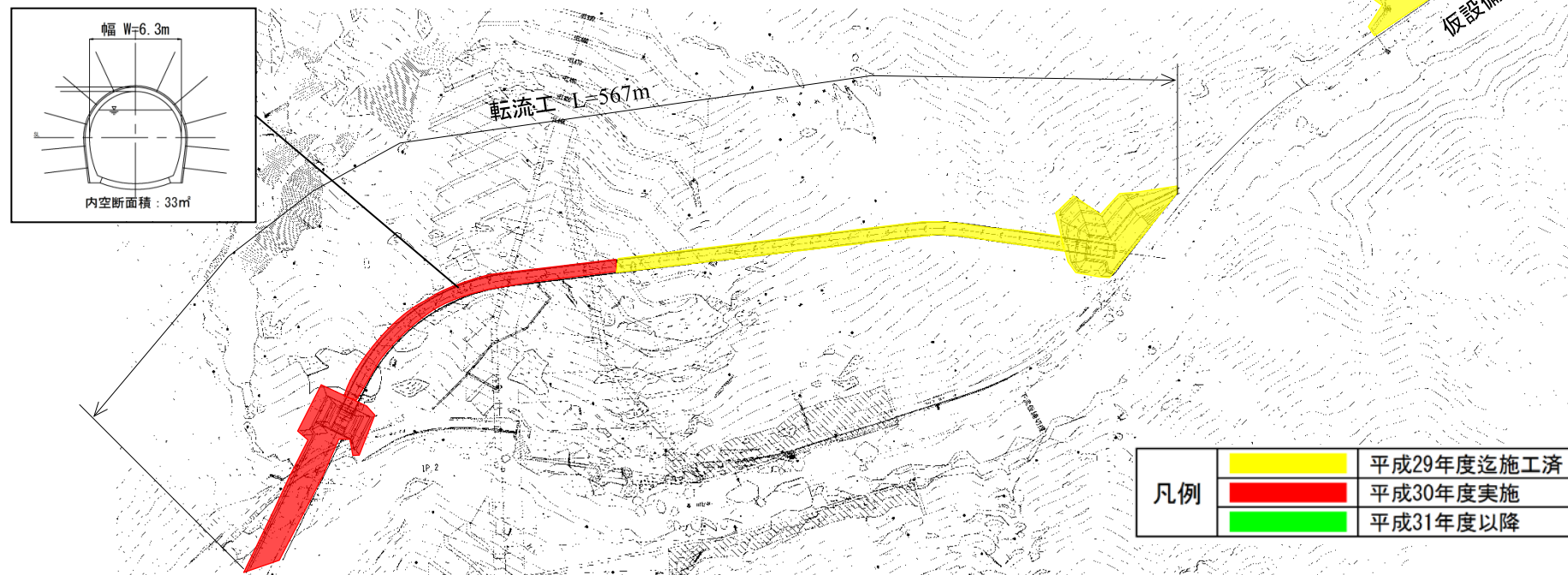
(1) 本体付属関連工事 (廃棄岩骨材運搬路・右岸天端進入路)



3) 個別説明

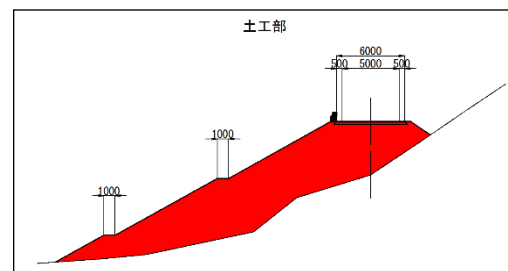
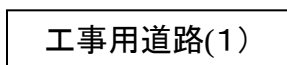
(2) 転流工 (約613.0百万円) 工事費

本体工事に向けた豊川本川の切り回しのための仮排水路トンネル工事(平成28年度～30年度)。
平成30年度は、トンネル貫通。



(3) 付替道路工事

付替道路(県道設楽根羽線)の工事を引き続き実施。

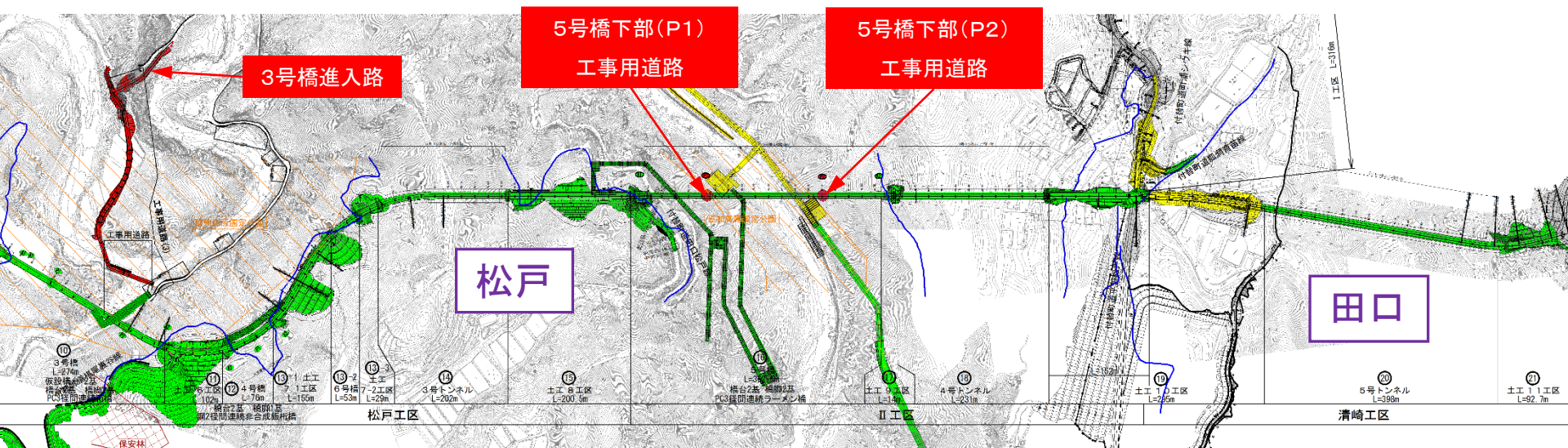


3) 個別説明

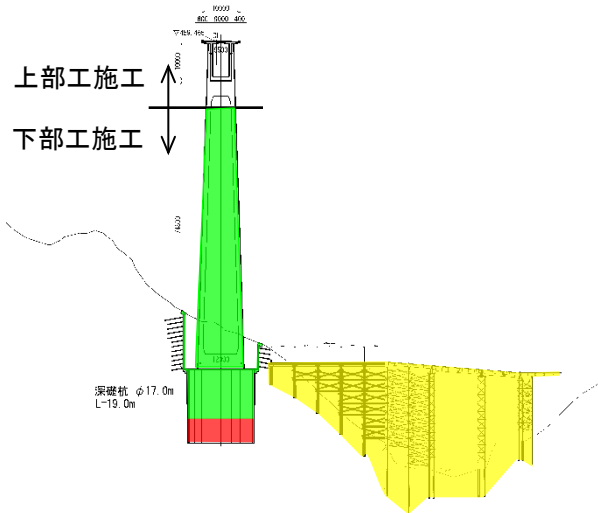
(4) 付替道路工事

付替県道瀬戸設楽線(約2171.0百万円の内約751.0百万円) 用地費及び補償費

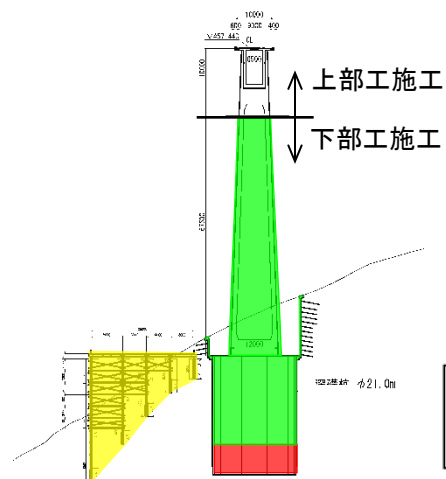
付替道路(県道瀬戸設楽線)の工事用道路及び工事橋梁下部工(5号橋)を実施。



5号橋下部(P1) 工事用道路



5号橋下部(P2) 工事用道路



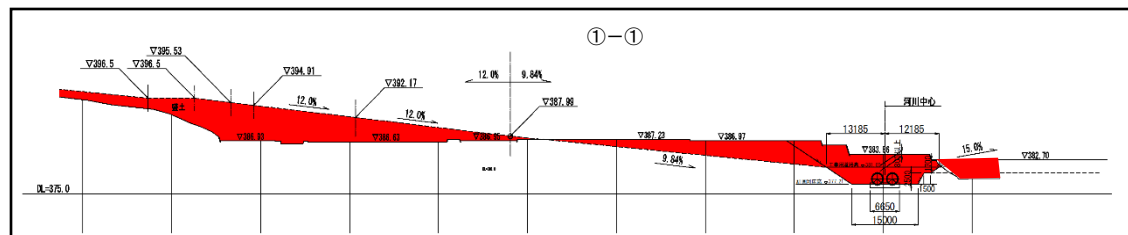
凡例		平成29年度迄施工済
		平成30年度実施
		平成31年度以降

3) 個別説明

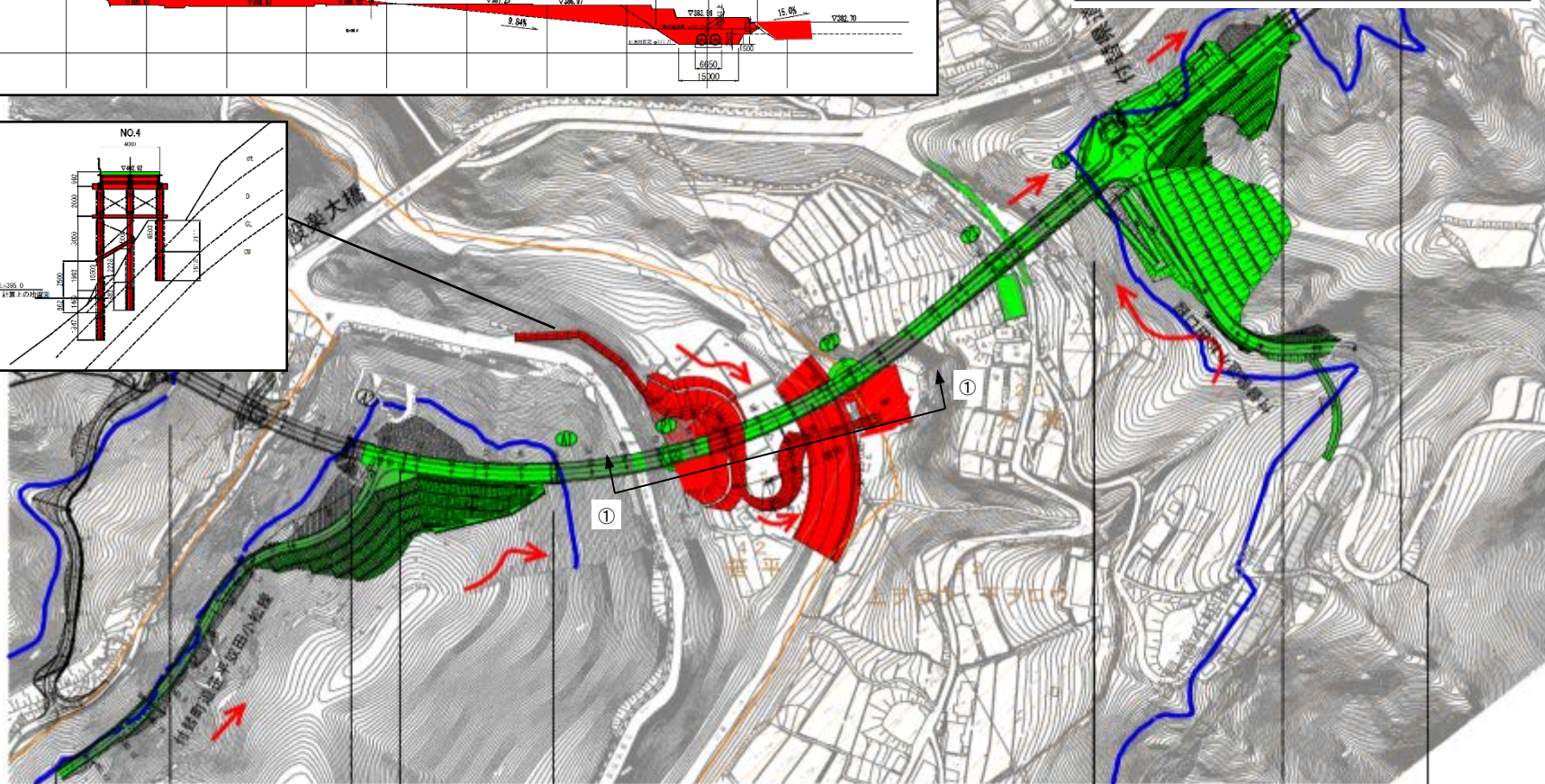
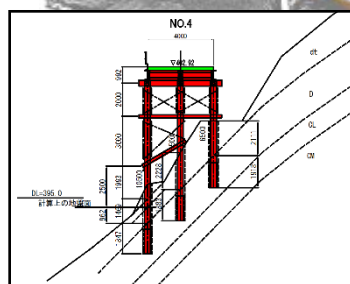
(5) 付替道路工事

付替国道257号(約2171.0百万円の内約231.0百万円) 用地費及び補償費

付替道路(国道257号)の工事用道路(4号橋)を実施。



凡例		平成29年度迄施工済
		平成30年度実施
		平成31年度以降



町道笹平奴田小松線 L=258m

⑥
3号橋 L=114m
橋台2基 橋脚1基
2径間連続
PCラーメン箱桁橋

⑦
土工 4 工区
L=116m

⑧
4号橋 L=357m
橋台2基 橋脚3基
4径間連続PCラーメン箱桁橋
工事用道路 L=180m

⑨
土工 5 工区
L=140m

⑩
5号橋 L=81m
橋台2基
橋脚1基
2径間連続
PCコンボ桁橋

⑪
土工 L=

4. ダムを観光資源とした地域振興の取組み

- ダム建設事業(工事)の地域観光資源化を目指して、民間シンクタンクが設楽町、設楽ダム工事事務所と共同して、大型バスによる試験的な観光ツアー『設楽ダム建設見学観光ツアー2017』を実施した。
- 田口線50の会(設楽町観光協会)や豊橋鉄道株式会社主催で田口線廃線50年の節目に合わせた、設楽ダム建設事業との観光ツアーを続々と実施。

■試験的な観光ツアー『設楽ダム建設見学観光ツアー2017』



ダムサイト建設地



付替道路設楽横羽線の工事現場



道の駅等建設予定地



みのや旅館(昼食)

■「田口線廃線50年廃線ツアー(H30.7～)」

廃線ツアー ※開催日4日前までに申し込めば
ご予約
7/7(土) 8/4(土) 12:30~17:00
設楽ダムに水没する田口線の遺構を見に行こう! (三河田口~清崎間)
行程 設楽町役場(集合・受付) 三河田口駅
鮎渡停留所 清崎駅 清崎バス停
(16:25~16:35) 田口バスターミナル 設楽町役場(解散) 【全行程約5km】
参加費 2,000円(イベント保険込)・バス代(別途440円)
定員 各回20名 持ち物 歩きやすい靴、水筒
注意: コース内にトイレ、自販機はありません。指定駐車場に駐車いただくが公共交通機関でお越し下さい。

田口線50の会パンフレットより抜粋



H30.7.22奥三河再発見ツアー「田口線廃線跡探訪シリーズ」(全3回)状況

田口線廃線50年の記念に、設楽ダム建設に伴い旧田口鉄道が水没してしまうため、近くで見る機会を求めて多くの来訪者があった。

地元住民のみだけでなく全国各地から参加者がおり、マスコミにも取り上げられ注目を浴びている。

参加40名うち約9割が次回の開催を期待するなど、建設工事を新たな観光資源として見せる工夫をすることにより、設楽町への集客効果に繋がる可能性があることが分かった。